企業名：　クボタ

レポート名：KUBOTA REPORT 2021(フルレポート版)

1. **この会社が目指す姿が理解できるか**
   クボタは、トラクターなどの農業機械を中心に生産し、世界中にシェアを展開している一大メーカーである。近年では農業機械のみにとどまらず、大規模なポンプやごみ処理施設など、水や環境に資する重要な製品を生産している。クボタは『KUBOTA REPORT 2021』内で『クボタグループは「食料・水・環境」分野で世界に貢献します。』(3 ページより抜粋)という方針を掲げており、1890 年創業以来貫き続けてきた「やればできる」「失敗を恐れるな」の信念のもと行ってきた食料・水・環境に関わる製品の生産への思いがうかがえる。4 ページにあるような「クボタグローバルアイデンティティ」からも、クボタがどのような企業になることを目指しているのかが読み取れる。よって、このレポートからクボタが目指すべき姿が理解できると言える。

2. **この会社の競争優位性が理解できるか**
   クボタが世界中で事業を展開し様々な分野で活躍していることは理解できるが、具体的な数値、例えばシェアの割合などが分かる資料は掲載されていなかった。このレポートを見ただけでは、クボタがどのくらい市場で優位に立っているのかを理解するのは難しい。

3. **その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか**
   前述の通り、資料には競争優位性に関する説明がなかったが、「中期経営計画 2025」(18 ページ)を見ると、これからクボタがいかにして事業を継続し成長していくかがはっきりと示されている。特に興味深いのは、「K-ESG の施策」(18 ページ中段)である。環境(E)・社会(S)・企業統治(G)の 3 つの観点から様々な施策を行い、環境に配慮しつつ社会に貢献し、クボタという企業自体を良くしていく。それらを並行して行うことで、理想的な企業になろうという意思が感じられる。レポートに掲載されている図にもある通り、これらは円環でつながっている。この計画を十分に実現できれば、クボタはより良い企業となることが出来ると考えられる。

4. **この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか**

これに関しては、18 ページ下段の「次世代の成長ドライバー候補の獲得に向けた取り組み」および 19 ページに詳しく書かれている。クボタは次世代の育成・成長に向けても力を入れていく方針であることが分かる。国内外に展開している強固な販売網、豊富な製品群、さらに確かな技術力を背景に、人口増加による世界的な食糧需要の増加や水インフラの整備の必要性などが相まって、これからの世代にも事業に携わる機会が非常に多くなることが予想される。この点を考慮すれば、クボタは人材を確保した上で適切な教育をすれば、将来の企業のさらなる成長に資するに足る人物を多く輩出することができる能力を持っていると言える。よって、レポートを見る限りではこの会社で自身の人的資本の価値を高めることが出来ると考えられる。

5. **報告書にはどのような改善余地があるか**

181 ページにも及ぶ長大なレポートの中で、クボタという企業が見えた。ただ、既述のように他企業との比較や業界におけるシェア、優位性を示すデータなどが掲載されていると、株主や投資家たちの良い検討材料となるのではないかと思う。逆にそれ以外の点に関しては非常によくまとまったレポートであると言える。決算資料だけでは見えない企業の思い、特に「どんな企業になろうとしているのか」がよく分かるレポートであった。掲げた目標を実現できるか、クボタの企業努力に期待したい。